

## ヨハネによる福音書 7章 25～36節

御一緒に読み進めてきた7章も半ばまで進み、今月は25節以下となりました。7章はその書き出しから「ユダヤ人が〔イエスを〕殺そうとねらっていたので・・・」(7:1)と始まり、続いて、イエスに対する兄弟たちの挑発を記述。さらには、神殿におけるイエスとユダヤ人たちとの緊迫したやり取りを記した<sup>のち</sup>後、今月の箇所へと移ります。そこには一貫して張り詰めた空気が流れ、イエスを取り巻く緊張感が漂っています。

しかも、これを受けて展開される、今月の25節以下。それがいったい、どんな言葉で書き始められているかというところ・・・。「これは、人々が殺そうとねらっている者ではないか」(25)との「エルサレムの人々」(同)のそれです。ヨハネはこうして、1節の言葉を重ね、イエスに対する殺意が膨らみつつあることをいま一度<sup>ほの</sup>仄めかします。今回その中心に<sup>えが</sup>描かれるのはユダヤのリーダーたち(とその下役たち)ですが、事は少しく進み、いよいよ「イエスを捕らえるために・・・」(32)との事態に進展します。状況はさらにも緊迫の度を増しつつあるようです。

こうしたなか、イエスをめぐるやり取りから、私たちははたして何を読み取り、どんなメッセージを聴き取るのでしょうか。御一緒に探ってゆけたらと思います。

**「今しばらく、わたしはあなたたちと共にいる。**

**それから、自分をお遣わしになった方のもとへ帰る。**

**あなたたちは、わたしを捜しても、見つけることがない。**

**わたしのいる所に、あなたたちは来ることができない」(33、34)**

- ・今月の場面はこうした推移の中にあります。しかし、どこか気にかかつては心を離れない言葉がないでしょうか。
- ・上掲の一節で、今回の後段に記されているイエスのひと言です。
- ・その場のユダヤ人たちも、なんとなく気になったのではないのでしょうか。イエスの言葉をそのまま、もう一度繰り返しています。「『あなたたちは、わたしを捜しても、見つけることがない。わたしのいる所に、あなたたちは来ることができない』と・・・はどういう意味なのか」(36)と。
- ・「あなたたち」(33、34)とはユダヤのリーダーたち(ファリサイ派の人々、祭司長たち)と下役たちのことですが(騒ぎを聞きつけて集まってきた一般の人々も含まれるかも)、
- ・いずれにせよ、同じ一節を続けてそのまま丸ごと繰り返すようなことは、ヨハネの福音書ではめったにありません。
- ・ということは、そこになにかがしか大切なメッセージが置かれているということではないでしょうか。
- ・前段を含めた今月の箇所全体からすると、そこには聴き取るべき語りかけが一つならずあるとも

思われますが、今回は後段を中心に ある視点に絞って読み、その一つを聴き取れたら、と思います。

・それは イエス自身が語られた相互に矛盾するような二つの言葉から示唆される視点ですが、例えば 上掲の言葉の背後にそうした響きを感じられはしないか、ということです。

## 二つの言葉

・相矛盾するような イエスの二つの言葉とは、すなわち、

①「探しなさい。そうすれば、見つかる」(マタイ 7:7) と

②「あなたたちは、わたしを捜しても、見つけることがない」(34) の

その二つです。

・時に「見つかる」と言われ、また時に「見つけることがない」と言われる。

・これはいったい、どういうことなのか。

・そして、これらを繋いでくれる言葉はあるのか、聖書の中に。

・視点とは、その答えを示唆しているように思われる視点です。

## エルサレムの人々：「これ〔イエス〕は、人々が殺そうとねらっている者ではないか」(25)

・時は ユダヤの3大祭の一つ「<sup>たいさい</sup>仮庵祭<sup>かりいおさい</sup>」の最中で、

\*仮庵祭とは、旧約の時代に奴隷のエジプトを脱出したイスラエルの民が荒れ野で仮の住まい(仮庵)を設けて 旅を続けたことを記念する祭り。

・場所は エルサレムの<sup>けいだい</sup>神殿の境内です。

・「エルサレムの人々」とは エルサレムの町に住む人たちのことですが、祭りのために神殿に出向いた その彼らが驚きます。イエスが白昼堂々、公然と教を説かれていたからです(26、28)。

・そして言われたのが、上掲の言葉でした。

・町の人たちにとって、イエスがユダヤの指導者たちに命を狙われていることは周知の事実でした。

同：「〔なのに〕何も言われぬ。

## 議員たちは、この人がメシアだということを、本当に認めたのではなからうか」(26)

・しかし、イエスは話を止められるわけでもなく、教を説き続けている。

・そこで、人々の頭を一時、よぎったのでしよう。ということは、もしかしたら 議員たちも・・・。

・「議員たち」というのは、サンヒドリン(最高法院)と呼ばれた 当時のユダヤ社会の最高機関のメンバーたちのことです。

・その議員たちまでもが もしや、イエスをメシア(救い主)と認めたのではあるまいか、と 彼らは一瞬 そう思ったのでした。

・ですが、その思いもすぐに・・・消えたようです。そんなわけ あるはずがない、と。

同：「しかし、わたしたちは、この人がどこの出身かを知っている。

メシアが来られるときは、どこから来られるのか、だれも知らないはずだ」(27)

- ・なぜなら・・・と言って、彼らが挙げたのがこうした理由でした。
- ・つまり、イエスの氏素姓<sup>うじすじょう</sup>を知っている。そんな人間が どうして救い主なのか、というわけです。神の所から来たというなら、どこか分からない それらしく神秘的なところがあるはずだ、と。

〔参考〕当時のユダヤ教の教師の言葉にも、次のようなものがあります。「全く意表を突いて来るものが、3 つある。メシアと儲けものと 蠅<sup>もう</sup>である」。要するに、救い主・メシアは予想もしない時に、驚くような仕方で突然、その姿を現わすというのです。

- ・しかしながら、救い主らしさとはそもそも どんなものでしょうか。
- ・また、それは必ずや、出自<sup>しゅつじ</sup>の分からない所から・分からない仕方で・目を瞠<sup>みは</sup>るような姿で突如 現われる、と決めつけてよいものかどうか。
- ・大事なのはいつも、聖書そのものに戻って そこで事を問う、ということではないでしょうか。
- ・そのようにして 救い主の預言を記す旧約聖書に問うとき、どうでしょう？

- ①救い主の生まれについて、
- ②その姿について、
- ③その生涯について、

そこに何か、書かれてあることはないのか。あるとしたら、それはどんなことか。いま一度、振り返ってみてはいかがでしょう。

- ・そして、そこで気づかされるメッセージとは？

「わたしは自分勝手に来たのではない。  
わたしをお遣わしになった方は真実である・・・。  
わたしはその方のもとから来た者であり、  
その方がわたしをお遣わしになったのである」(28~29)

- ・あんなのことはよく知っている。あんなには神秘的なところがない、と そう言う人々に対し、
- ・だからこそ イエスは、けれども自分は・・・と、大声で 上記のように言われたのではないでしょう
- ・すなわち、自分は来たいから来て、喋<sup>しゃべ</sup>りたいから喋っているのではない。遣わされてきたのだ、と。
- ・実際、ユダヤの社会では当時、救い主を騙<sup>かた</sup>る自称メシアが次々と現われていました。そして、(旧約) 聖書に基づかない「自分勝手」(28) で受けのいいあれこれを語っては、信奉者を獲得しようとしていました。
- ・そうした「自分勝手に来た」(同) 者たちを指摘しつつ、しかし 自分は違う、と イエスは言われたのでした。私は遣わされてきたのだ。真実なお方から、と。
- ・これは、それまでも一度ならずなされてきた、イエスの特別な宣言に通じるものと言えるでしょう。私は神を知っている。私の父なる神だからである。そして、私と父とは一つであり、私はそこから遣わされてきた、との驚くべきものです。

- ・しかも、そうした宣言が誰に向けてなされているか。そのことに気づくとき、驚きはさらにも深くなるのではないのでしょうか。
- ・誰に向かってか。イスラエルの人々に向かって、です。
- ・そして、イスラエルの人たちの自己理解とは？
  - ①読み解くヒントは、自らを「<sup>みずか</sup>選民」と呼ぶ、彼らのそうした意識に。
  - ②自分たちは 神を・・・ている。神に・・・されている。・・・のように・・・される・・・はない、との その意識にあるのでは・・・。
- ・しかし、同時にまた、思わされもします。そこに垣間見られる彼らの特徴は はたして、この私たちと無縁なものか否か。重なる部分がありはしないか、と。自身の立派さ、その自負、自省の後退・・・。

### 「あなたたちはその方を知らない」(28)

- ・そんなふう<sup>に</sup>に自負していたユダヤ人たちはです。その彼らに対し、イエスは「あなたたちはその方〔イエスを遣わされた神〕を知らない」と そう言われたのですから・・・。
- ・言われた彼らの内心とその反応は？
- ・そして、彼らが実際に執った行動は？
- ・さらには、イエスのこの言葉に隠された信仰的意味合いとは？

ユダヤ人たち：「わたしたちが見つかることはないとは、  
いったい、どこへ行くつもりだろう。

ギリシア人の間に離散しているユダヤ人のところへ行って、  
ギリシア人に教えるとでもいうのか」(35)

- ・これは、冒頭で取り上げた 33 節、34 節のイエスの言葉に対するユダヤ人たちの <sup>つぶや</sup> 呟きです。
- ・ここで「ユダヤ人たち」とは ユダヤのリーダーたちのことですが、
- ・前項で見たような彼らにとっては イエスの言葉はそもそも意味不明で、理解できずにいたのでしよう。
- ・それに、たとえその意味が分かったとしても、それはとても受け入れられることではなかった。
- ・なので、上掲のような、なんとも外的外れな応答をしたのではないのでしょうか。
- ・「ギリシア人の間に離散しているユダヤ人」とは「ディアスポラ（散らされた者たち）」と呼ばれたユダヤ人たちのことですが、
- ・イエスは外国に散らばっているユダヤ人の所に逃げて行って、そこで現地の「ギリシア人に教える」とでもいうのか」と、 そう 彼らは言い合ったのでした。
- ・イエスは 実際には、いましばらくしたら どこに行かれるのか。その使命はどんなもので、赴く先はいったい どこでしょうか。
- ・ちなみに、彼らの言ったギリシア人伝道は 皮肉にも (?)、<sup>こうねん</sup> 後年、弟子たちの働きを通し

て・・・どうなるか。ヨハネ独特の暗示的な言い方です。

・そして、こうしたユダヤ人たちの姿から自戒すべきものがあるとしたら・・・。それはどのようなことか、考えさせられます。

### 「イエスの時はまだ来ていなかった」(30)

- ・「イエスの時」とは すなわち、イエスが十字架に上げられる時ですが、
- ・つまり、このようにして、イエスに対する殺意が膨らみつつあった。がしかし、まだ 十字架のその時ではなかった。
- ・なすべきことが残されていた。
- ・だから、イエスはまだ 人々の手にはかからなかった、と 聖書はそう記しています。

### 「今しばらく、わたしはあなたたちと共にいる」(33)

- ・イエスはこうして その働きを続けられますが、そこにはしかし、「今しばらく・・・」との 微妙なひと言が添えられてもいます。
- ・ということは、言い方を換えれば、いま少ししたら・・・それが だからどうなる、ということなのでしょう？
- ・そうしたら、(私を) 捜しても見つからない (34)、とも イエスは言っておられます。
- ・聖書に登場する人々だけでなく、私たち自身の事柄として、そこにはどんな意味合いがあるのでしょうか。
- ・「時」という、その中に私たちが置かれている現実。
- ・その現実と合わせ考えるとき、ここから どんなことが見て取れるか。
- ・聴き逃したくない大切なこととして、どんなメッセージが聞こえてくるのでしょうか。

### 二つの言葉を繋ぐ御言葉は どこに

- ・そして 最後は、冒頭の問いに戻らねばなりません。
- ・「見つかる」と「見つけることがない」を繋いでくれる、聖書の言葉。
- ・それは はたして、どんな御言葉でしょうか。